



読字 原田 鏡

No. 820

2017/ 2/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0033 東京都文京区
湯島1-1-1 TEL:03-3831-1111

日中友好協会
岡山支部
〒710-8256
岡山市東区3-8-30 511
TEL:086(272)-3010
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8911
倉敷市連島中央1-8-4
(宮地方)
TEL:FAK086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.biz/>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



岡山・十五年戦争資料センター、第1回研究会

軍国少年だったころー竹内和夫先生のお話



1月22日、研究会に初めて参加しました。そして竹内和夫先生の「軍国少年だったころ」の講演を聞きました。私は最近数年の竹内先生ことしかわからないので、興味深く聞かせていただきました。

何年か前のことでしたが、竹内先生が自転車で移動されていた時のことです。道路と自転車と乗っている人がピタッと縦一直線に動く様子に私は見とれたことがあります。

近くに来て竹内先生とわかった時、運動神経の関係かと思っていました。私はどうしても前後左右にふらつきません。その強い印象に根拠があったことが、今回の講演を聞いてわかりました。竹内先生は自転車の乗り方が正しく上手なのです。子どもの時代から自転車は無くしてはならないものだったので一心同体の動きができたのです。

竹内先生は東京の下町の商家の11人兄弟姉妹の上から2番目の子どもとして育ったそうです。家業を手伝うのが当たり前の時代、自転車で物を運んだり用事で出かけたたり自転車と共に成長したようなものだったそうです。だから子どもどころ培った能力で自転車を自分の体の一部のように操作できていたのだと思います。青年の頃は苦学生だったようですが、学んだ外国語で高給を得た時代もあったそうです。戦後GHQに関連したCDという検閲機関で働いた時、手紙の検閲の仕事をした

たそうです。封書を開封して中の文書を読み、問題があれば英訳してGHQに渡すのだそうです。英語の力をはじめいろいろな能力が無いとできないことだと思いますが、ちょっと怖い話だと思います。思想信条表現の自由に係わる大切なことですが、情報機関はそういうことをするのですね。戦後の混乱の時代を感じさせる話と思いました。そのように、竹内先生は若い頃から語学に優れていらしたので

竹内先生は英語をはじめロシア語・蒙古語など多言語を習得されていますが、講演の中でも「マンジュ語」と言う外国語が出て来ましたが、私には初めて聞く名前でしたが、一つの言語が地方に広がる過程で、その地にもとからあった言語と結びついたり発展したり変化したりして多言語が生まれることがあり、語学はとても奥の深い学問だと思います。

竹内先生はその後東京大学に入学し、さらに学ばれました。学ばれたことを生かす仕事はあまりなかったのですが、しばらく東京の中学で教師をされていたそうです。東京の中学生はすぐく得をした時代が

あったのです。そしてやっと生まれ育った東京から、岡山へ来ていただくことができました。岡山大学教授時代が始まるのですが、お話を聞いていても、言語を学ぶことは地味でいっぱい努力しなければならぬことだと思いました。

竹内先生が多くの言語を習得されていることは能力もさることながら、すごい努力の賜物だと思いました。

東京にご家庭がおりなのに、退官後も岡山の民主的な

運動を支えて下さってありがたいことだと思います。岡山の気候も食べ物も、何よりも人が魅力的だからいてくださると信じています。これからお体大切に、岡山の民主的な発展のために、そして私たちのリーダーとして一日も長く岡山の地にいてくださることを、心より願っております。竹内先生、ありがとうございます。

石川 真佐代

竹内和夫氏(90歳)の略歴

- 1927年1月 東京府下南葛城郡亀戸町(現・江東区亀戸)で11人きょうだいの2男として生まれる。
- 1939年3月 亀戸水神小学校卒業
- 1944年3月 江戸川区関東商業学校卒業
- 1947年3月 東京外事専門学校蒙古科卒業
- 同 4月 アメリカ占領軍GHQ(連合国最高司令官総司令部)のCCD(民事検閲部)に就職。
- 1949年2月 東大受験のためCCDを辞職。
- 1952年3月 東京大学文学部卒業。
- 同 9月 東京都葛城区立本田中学校の教師になる。
- 1976年1月 岡山大学法文学部教授
- 1980年4月 岡山大学文学部教授(法文学部改組に伴う)
- 同 9月 「トルコ語辞典」昭和62年度新村出賞受賞
- 1992年3月 岡山大学定年退官・岡山大学名誉教授
- 現 国民救援会岡山県本部 会長
日中友好協会岡山支部理事長
- 著書: トルコ語辞典をはじめ著書多数。

第3回中国百科検定

申し込み締め切りまで1か月を切る

「理解は絆を深くする」ー中国力で可能性を広げようーを合言葉に取り組んでいる、第3回中国百科検定の申し込み締め切りが迫ってきました。

岡山支部では20人の受験者を目標に取り組んでいます。できれば30人の受験を目指しています。

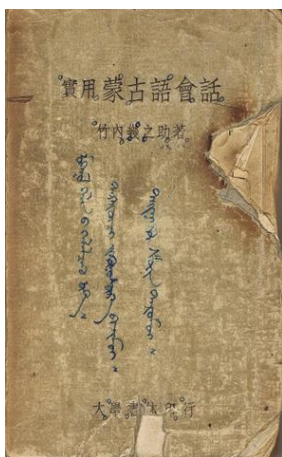
2級、3級の受験では、問題集を繰り返し学習すれば100%合格できます。

この機会にお誘いあわせのうえ、ぜひ大勢の皆さんにチャレンジしていただきたく思っています。

日中友好協会岡山支部

☎ & F AX 086-277-2470 (小林)

メール kazuko_soda@yahoo.co.jp(曾田)



實用蒙古語會話
竹内幾之助著

1945.3.10の東京大空襲時、唯一助かった書物

軍国少年だったころ 一竹内和夫先生のお話

敗戦が国民学校6年生の夏だったから、私の戦争体験は少し竹内先生と重なっている。その自分の経験と重ねながら、興味深くお話を聞かせてもらった。

竹内先生は「軍国少年」だったそうである。当時の教育によつて育てられたら当然そうなるであろう。その後、組合活動などを通じて平和と民主主義の大切さを身につけて生きてこられた経過に大きな共感をおぼえた。

る。歴代の天皇や教育勅語の

暗記、奉安殿への最敬礼などを強制されたこともない。

そして「神の国」の国定教科書にも、「詩」や「物語」など、戦争に無縁な部分もあったのだ。私はその世界に入りこみ、想像・空想の世界を自分の中に育てていたから、「戦争」に対して少し距離をもっていたのかもしれない。儀式のとき、校長先生がおごそかな声で「オモフニ・・・」と読みだすと、ふき出しそうになって困った。意味など分からないし「音」だけ耳に入ってくるから私の想像の世界が広がってし

まうのだ。

先生によつては、男子生徒の両手に、水のいっぱい入ったバケツを持たせ、ゲタ箱の前に立たせる「罰」を与えていた。だれかが、あの子、台湾の子だといひ、私はかわいそうを下を向いて通りすぎた。

おとなになってから同世代の童話作家が書いた一文を目にした。

「ぼくは敗戦時、12歳だった。人間、12歳といえば、中国の地に、なんで日本の兵隊がいるのだらうか」という疑問をもつてもよかつたのにー今、自分を恥じている」と。

私は、あの環境の中では、よ

つほど賢明な大人がいて教えてくれないかぎり、だれだって疑問を感じなかつたのは当然だろう、と思つた。しかし、この作家のことは胸に残つた。おその国の土地へ、武器をもつて入つてはいけない。それは侵略だから。

今、この国はどうだろう。中国への侵略」を認めたくない人たちが、とうとう危険な道へふみ出してしまった。戦争体験者の心は悲鳴を上げている。

代わりに、竹内先生のように「体も心も自立」して、すこやかに年を重ねていきたい、と勇気をもつた機会でもあつた。

坪井あき子

野党共闘を実現させよう！



1月28日の土曜日に、岡山駅西口を通りかかった時に写真の旗が目に入りました。時間は12時半ごろでした。近づいてみると、リレートークをしていて、ピラも配っていました。若い人が多く集まっていて、通りかかった人となごやかに話をしています。

私も知り合いの顔をみつけて、立ち話をしました。買い物を済ませてもう一度そこへ戻ると、ちょうど終了の時間になったようで、「おかやまいっぼん」の会の宮本龍門さんがトークを終えて、周りの皆さんに声をかけ集合写真を撮っていました。そこで私も一枚写らせていただいたのがこの写真です。

寒さで縮こまっていた気持ちが解き放たれ、とてもいい雰囲気を感じました。春も近いかな！

(真田)

日中岡山支部パネル展開催



1月26日から2月1日まで、岡山国際交流センターで「日本中国友好協会を知ってもらおう」とパネル展を開催しました。

今回は、中央に「第3回中国百科検定」の案内を模造紙に大きく書いて掲示しました。左側には、新年号の林家三平さんの、中国で落語をした時の記事など日中友好新聞を掲示しました。右側には、日中岡山支部主催の芳田日本語学習講座の様子を紹介しました。他には、例年通りの太極拳、きりえ展、中国語講座や中国帰国者との交流会、日中不再戦の宣伝行動などを展示しました。25日に、河井理事と用意しているときに、一人の男性が熱心に展示を見ていました。今後も展示内容を充実させ、多くの人に観てもらいたい

中国百科検定第1回受験対策講座



隋、唐代、宋代について中国の歴史をわかりやすく解説していただきました。元代から現代は第2回に行います。受験までに、少なくともあと二回は対策講座を開催する予定です。受験の予定がない方もぜひご参加ください。どうぞご案内いたします。

第2回は次号で案内します。(曾田)



次回の新聞送付作業は2月13日(月)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

石川 小林 曾田 竹内和 竹内袈 坪井